

海運〈経営・全般〉

2020年6月29日

「海運界、環境規制強化で先手を」 シナジーのウニCEO、フォーラムで



ウニ氏

船舶管理業を展開する星港のシナジー・グループ創業者であるラジェッシュ・ウニCEOがこのほどキャピタルリンク主催のオンラインフォーラムで脱炭素化への道筋をテーマとしたセッションに登壇した。その中で同氏は「海運業界は環境規制強化の流れに対して先手を打つべく、短期的にはCO₂排出量を削減するさまざまな燃費削減策を早期に導入し、同時により長期的で根本的なサステナビリティの課題に積極的に取り組んでいく必要がある」との考えを提示。また、「私たちのように“技術的な知見を持つパートナー企業”を自負する者にとって、脱炭素化は大きなチャンスだ」との認識を示した。

ウニ氏は「脱炭素化は大きな課題であると同時に大きなチャンスだ」と指摘。新型コロナウイルス問題の収束後は、海運業界に対して持続可能性の実現に向けて抜本的な環境対応を求める声が高まると見通し、「将来的にはより持続可能な燃料への移行は避けられないが、その前に、船主や船舶管理会社が排出量を削減できる道筋も多く存在する。例えば、船舶の設計・建造は船舶のライフサイクル全体での排出量削減を目的としたものに改善することができる。港湾の運営はより効率性を向上することができる。テクノロジーやデジタル化は船舶の燃料消費量を低減することができる」と当面取り得る具体策について言及した。

シナジー・グループは脱炭素化に関して近年取り組みを強化。「シナジー・グループが脱炭素化に関して行う研究開発投資の対象は、実際に排出量削減が実現可能な領域に集中させてい

る」とし、ナノバブルを電気化学反応で発生させて付着物を除去することによる推進時の抵抗低減や、デジタル化製品「SMARTShipTM」を利用した燃料最適化の取り組みを紹介。「長期目標に取り組む前に、小さくとも実現可能な方策が多くある」と語った。

また、2050年の温室効果ガス排出半減を掲げる I M O（国際海事機関）に対して、「脱炭素化のためのイノベーションを促進し、船主やオペレーターから見た持続可能な選択肢が増えるインセンティブを提供する、新しい規制の枠組みを求めた」と述べた。

このセッションにはウニ氏のほか、C M Bグループ、マースク・タンカーズ、M S Cグループ、プロミネンス・マリタイムのトップが登壇した。

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.